

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	昭和女子大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ショウワジョシダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F113310103082
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	東京都
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	インターンシップ(国内) 通年
	学部・研究科等名	全対象
	担当教職員名・役職	グローバルビジネス学部ビジネスデザイン学科特任教授 磯野 彰彦
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	92
	受入企業等数	255
	受入企業等名	パナソニックグループ、フェデラルエクスプレスジャパン、キッコーマン、アスクル、イオン、トラスコ中山、内田洋行、三谷産業、SMBC日興証券、みずほ証券、三井住友銀行、三井住友海上火災保険、第一生命、日本生命、KDDI総研、戸田建設、官公庁、日立ハイテクソリューションズ、三井不動産、等
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 2.有給インターンシップ 4.国際機関でのインターンシップ 5.他県をまたぐ広域インターンシップ 6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 11.その他 その他:障がい学生、外国人留学生の受入可の企業を含む
	要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。
1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事	
	2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)	
	3.その他	
1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	マナー・接遇研修、広義におけるインターンシップについての研修 等	
1-3.上記回答内容に関する詳細	一例:社会人としての接遇やマナー(企業・インターンシップ中での活用有無に関わらず)についての研修。社会・就職活動におけるインターンシップの意義・あり方についてのレクチャー・講習 等	
2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい	
2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している	
	8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している	
	7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している	
	9.その他	

要素②	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	原則夏季休暇期間となるが、場合によっては、授業期間内・春期休暇期間に該当する場合もある。また、所定の時間数（日数）に達していない場合、教養科目の単位認定は不可となる。
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部1年
		大学 学部2年
		大学 学部3年
		大学 学部4年
		大学 学部5年
2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位	
2-5.上記回答内容に関する詳細	企業によって受入可能学年は異なる。学部5年生については、ダブルディグリー制度受講者。院生の受入を可としている企業もある。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
		5.その他
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	各企業に担当職員がつき、マナーや守秘義務についての事前説明と面談を行い、企業へ派遣している
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
		4.その他
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	年度内参加者（選抜）による報告会を企業向け・学生向けに実施している。企業担当職員から実習中の評価をフィードバックいただいている。
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	企業によっては、企業内成果報告会を実施しているため、参加する
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	①説明会：インターンシップ概要説明、実施要領・単位要件の説明。②セミナー：外部講師による講義、受入先企業紹介。手順説明。③マナー講座：外部講師によるマナー・接遇の講義。④各企業担当職員による事前説明・面談	
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	①上記報告会の実施。②報告書の提出。③受入先企業担当職員からのフィードバック。④選抜学生による報告会	

	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	企業によっては、企業内成果報告会を実施しているため、参加する
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	4.その他
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	受入先企業による評価書
	4-3.上記回答内容に関する詳細	各企業統一の評価書に基づき、学生の資質・能力についての評価を依頼している
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
		2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
		3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
		4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	5日間以上で企業によって異なる
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	事前1日＋実施3日＋事後1日、事前2日＋実施3日等、企業によって異なる
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	グループでの受入の場合、グループ内企業でプログラムを実施する
5-2.「4.その他」の実施期間の内容	受入先企業と学生による日程調整で期間を決定する	
5-3.上記回答内容に関する詳細	プログラム・時間数・期間等、企業によって異なる	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
		5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
		7.その他
6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	企業によっては、受入学生の学習上の課題をヒアリングし、インターンシップ後に学習面への効果を見込めるプログラムを学生ごとに変える 等	

	6-3.上記回答内容に関する詳細	受入前に事前面談を行い、ポートフォリオを用いてプレゼンを実施、課題についても共有し、プログラムを検討する。その後最終的な成果物について、大学職員にも共有する（但し企業による）。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="https://up.swu.ac.jp/unipa/faces/up/km/Kms00802A.jsp">https://up.swu.ac.jp/unipa/faces/up/km/Kms00802A.jsp</a>
問 い 合 わ せ 先	大学等名	昭和女子大学
	担当部署名	キャリア支援センター
	担当者役職名	
	担当者氏名	石川 雄太
	電話番号	03-3411-5119
	メールアドレス	<a href="mailto:career_intern@swu.ac.jp">career_intern@swu.ac.jp</a>